



2020年度 **2月号**  
 日本キリスト教団  
**名古屋新生教会** 教会学校だより  
 名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820  
 HP: <http://www.13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

### 教会学校礼拝・こどもれいはい お休み継続のお知らせ

新型コロナ感染拡大の情勢により、愛知県の「緊急事態宣言」が延長されています。これを受けて、引き続き3月7日（日）までの教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します（大人の礼拝も同様）。休止期間は状況により変更することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡します。

新規感染者数は減少しつつあるものの、コロナウィルスは身近に迫り、いつ・誰が感染してもおかしくない状態です。引き続き注意が必要です。みなさんの心も体も健康であるよう祈ります。

### 今月の礼拝 単元10: イエスの歩みⅡ

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級Ⅰ (小1~小4) 分級Ⅱ (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
2月7日	弟子を招く	ルカ福音書 5:1-11	教会に集まっての 教会学校礼拝・こどもれいはい・分級は、 引き続きお休みです。(大人の礼拝も休止)		
2月14日	サマリアの女性を導く	ヨハネ福音書 4:1-30、39-42			
2月21日	ベトザタの池で	ヨハネ福音書 5:1-9			
2月28日	安息日の主	マタイ福音書 12:1-14			
3月7日	最後の晩餐	ルカ福音書 22:1-23			

ちょっと気楽に 次のイラストは何月何日の聖書かな？裏面を読んでね。



### 今月の聖句

イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」

(ヨハネ 5:8)

### 今月のさんびか♪

こどもさんびか 126 (うたいましょう)

今月の礼拝ではイエスさまの歩みを学びます。このさんびかは、イエスさまの大きな愛を軽やかに歌います。作詞者の花房泉一さん(1928-1999)は東京都出身で、牧師の家庭に育ちました。東京神学大学大学院を出て、福島喜多方教会、東京の左内坂教会で牧師を務め、左内坂教会の幼稚園園長として幼児教育にも力を尽くしました。『こどもさんびか』『こどもさんびか2』(1983)の編集委員として参加し、その他にも子ども向けの多くの賛美歌集の出版に関わり、たくさんの優れた作品を残されています。作曲者の二俣松四郎さん(1925-2016)は、北海道に生まれました。15歳で洗礼を受け、礼拝奏楽の奉仕を始めました。進学のため東京へ転居してからは弓町本郷教会のオルガニスト、聖歌隊指揮者を務めています。東京芸術大学音楽学部で音楽教育、パイプオルガンを学びました。卒業後は群馬交響楽団常任指揮者、日出国園教諭を歴任し、女子聖学院中学・高校の音楽教諭として定年まで勤められました。また、弓町本郷幼稚園の講師として園児たちの音楽教育を40年にわたって担当されたほか、グロリア女声合唱団を主宰し指導されました。作詞家、作曲家、編曲家としても活躍され、多くの賛美歌集の出版にも携わりました。弓町本郷教会の聖歌隊指導者としては65年もの長きにわたって尽力され、90歳で天に召されました。

このさんびかの歌詞では「主イエスの大きな愛を」「歌いましょう」「学びましょう」「伝えましょう」「おどろきましょう」と4節にわたって広がります。作曲者の二俣さんは「この歌詞を読んで、子どもたちがイエスさまの大きな愛を身近に感じられる素敵な詩だと感じ、その愛に感謝しつつ作曲しました」と述べています。伴奏譜にあるように、八分音符を主体とした伴奏で、はずむように弾くと、テンポ感が心地よい賛美となります。

このさんびかは2019年7・8月の「今月のさんびか」でしたので、覚えている人もいるのではないのでしょうか。サマーキャンプでは手話をつけて歌いました。覚えていれば手話をつけて歌ってみましょう！

うたいましょう

126

1. うたいましょう うたいましょう  
 2. まなびましょう まなびましょう  
 3. つたえましょう つたえましょう  
 4. おどろきましょう おどろきましょう

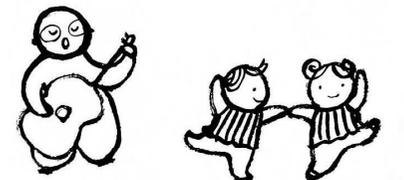
1.~4. しゅイエスの おおきな おおきな あい を

1. うたいましょう うたいましょう  
 しゅイエスの おおきな  
 おおきな あい  
 おおきな 愛を

3. つたえましょう つたえましょう  
 しゅイエスの おおきな  
 おおきな あい  
 おおきな 愛を

2. まなびましょう まなびましょう  
 しゅイエスの おおきな  
 おおきな あい  
 おおきな 愛を

4. おどろきましょう おどろきましょう  
 しゅイエスの おおきな  
 おおきな あい  
 おおきな 愛を



世界と人間 愛  
 詞: 花房泉一 曲: 二俣松四郎  
 ♪ = 116



「主イエス」の決まりフレーズ  
 中指で両手のひらをさす  
 右手親指を立て左手を下に添え右の上に

両手を出して、左右に広げる

さらに大きく両手を広げる

左手をやや丸め(頭のイメージ)右手をやさしくな  
 てる感じ

教会に集まったの 教会学校礼拝・こどもれいはいは休止ですが、日曜日ごとにそれぞれのお家で礼拝を守りましょう。「礼拝って言われても…」と思うかもしれませんが、聖書を読んで、静かにお祈りをするだけでも、神さまは祈りを聞き入れてくださいます。礼拝予定の聖書箇所を載せておきますので、お読みいただいて、自分なりに何かを考え、お祈りをしていただけたら幸いです。みなさんと一緒に教会で礼拝を守れる日が早く来ることを祈りつつ。

-----**2月7日（日） 弟子を招く** ◇聖書：ルカによる福音書5章1～11節

（ひかりのこ「号外」に掲載）

-----**2月14日（日） サマリアの女性を導く** ◇聖書：ヨハネによる福音書4章1～30、39～42節②

さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、――洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである――ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。しかし、サマリアを通らねばならなかった。それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。『「夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

-----**2月21日（日） ベトザタの池で** ◇聖書：ヨハネによる福音書5章1～9節

その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。この回廊には、病氣の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっている、いやされたからである。さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であることを知って、「良くなりたいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。

-----**2月28日（日） 安息日の主** ◇聖書：マタイによる福音書12章1～14節

そのころ、ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べはじめた。ファリサイ派の人々がこれを見て、イエスに、「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にはしてはならないことをしている」と言った。そこで、イエスは言われた。「ダビデが自分も供の者たちも空腹だったときに何をしたか、読んだことがないのか。神の家に入り、ただ祭司のほかには、自分も供の者たちも食べてはならない供えのパンを食べたではないか。安息日に神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っても罪にならない、と律法にあるのを読んだことがないのか。言うておくと、神殿よりも偉大なものがここにある。もし、『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』という言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もない人たちをとがめなかったであろう。人の子は安息日の主なのである。」

イエスはそこを去って、会堂にお入りになった。すると、片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に病気を治すのは、律法で許されていますか」と尋ねた。そこで、イエスは言われた。「あなたたちのうち、だれか羊を一匹持っていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか。人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。」そしてその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、もう一方の手のように元どおり良くなった。ファリサイ派の人々は出て行き、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。

-----**3月7日（日） 最後の晩餐** ◇聖書：ルカによる福音書22章1～23節

さて、過越祭と言われている除酵祭が近づいていた。祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた。彼らは民衆を恐れていたのである。しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた。彼らは喜び、ユダに金を与えることに決めた。ユダは承諾して、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

過越の小羊を屠るべき除酵祭の日が来た。イエスはペトロとヨハネとを使いに出そうとして、「行って過越の食事ができるように準備しなさい」と言われた。二人が、「どこに用意いたしましょうか」と言うと、イエスは言われた。「都に入ると、水がめを運んでいる男に出会う。その人が入る家までついて行き、家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をする部屋はどこか」とあなたに言っています。』すると、席の整った二階の広間を見せてくれるから、そこに準備をしておきなさい。」二人が行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくと、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言うておくと、神の国が来るまで、わたしは今後どうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。人の子は、定められたとおりに去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた。